

ドクターヘリ（ドクヘリ）のメリットは搬送時間の短縮だけにとどまらない。搭乗した医師が現場で患者を診断することで、病院到着後の速やかな治療につながっている。山梨県立中央病院高度救急センター救急科部長の松本学医師は「事前に準備

やまなし  
医療最前線  
ドクターヘリ10年  
県立中央病院から

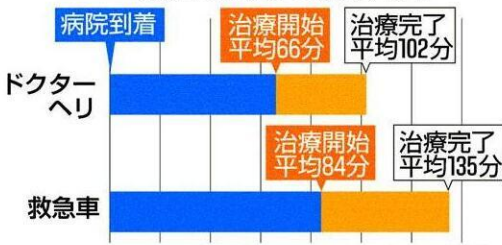
〈259〉



松本 学  
救急科部長

ができるので治療に至るまでの時間、治療に要する時間を短くできると話す。  
数年前、松本医師はドクヘリに乗って峡南地域に向かった。到着した

山梨県立中央病院  
搬送方法別の治療時間



※脳梗塞のカテーテル治療で比較  
2015年6月～22年9月を集計

# 医師が搭乗、現場で患者診断 病院搬送後治療早まる

発着場には、農作業中に倒れ救急車で搬送された高齢女性の姿があった。状況から脳梗塞により緊急手術が必要と判断。現場から病院に対応を指示し、戻ってからのスムーズな治療につながった。女性は軽い後遺

症が残ったものの、無事に回復して退院することができたという。松本医師によると、交通事故の減少、高齢者の増加によって脳梗塞や心筋梗塞によるドクヘリの搬送割合は増えている。かつて救急現場での

たり、必要な治療の準備を進めたりできる点も大きい」と説明。患者が病院に到着した後にも大きな効果があるという。脳梗塞のカテーテル治療に関する同院の実績を見ると明らかだ。救急車による搬送の場合、病院到着から治療開始までの平均時間は84分、治療完了までは135分。対してドクヘリはそれぞれ66分、102分といずれも短くなっている。

松本医師によると、この治療の有効性は、患者の状況にもよるが「発症から6時間」が一つの目安となっている。「倒れた状態で見つかるなど、時間が経過してから救急要請が入ることがある。医師がドクヘリに乗って現場に向かう意義は大きい」と強調する。

こうした命に関わる重症患者を救うためにドクヘリは日々県内上空を飛び回る。基地病院となっている県立中央病院は山梨県のほぼ中央に位置し、山間地の多い県内全域を片道15分以内でカバーしている。  
搬送時間の短縮に注目が集まるが、松本医師は「医師が現場から指示を出すことで、専門医を待機させ

同日は検査や手術を1カ所で行える「ハイブリッドER」の整備も計画中。松本医師は「治療を終えるまでの時間がさらに短縮できるだろう」と期待を寄せる。Ⅱ第2、4木曜日に掲載します。